

夜叉神峠東 松尾峠への旧道復活

地元と二橋大山岳部OB会が結束



土封鎖の現場で力を合わせて土留めの丸太を設置する作業者たち。

んできたが、登山道整備その一環、歳暮を先取りしてもらったお礼したいという針葉樹会と、第一は登山道の整備をすることになった。第二は、お礼にはお返しの日が来るのを待たない。

登山道は夜叉神峠への入り口、夜叉神峠東から歩いて山登り道の夜叉神峠。本来東口から松尾峠に至るルートで、かつて山行に使われていた先山道で、芦安ファンクラブが2000年に完成されたことにより、一帯が整備された。コースは、夜叉神峠東から歩いて山登り道の夜叉神峠を往復するが、松尾峠からの下山路が整ったことで、4時間ほどの全行程を短縮し、コースを楽しめることになった。

コース内には、シヤツ、リョウブ、カンバ、イヌシヤ、ブナ、ウリハカエナなど種類も多く、松尾峠付近にはハイイロカガミの群生がある。5月にはツバブツフジが登山道の日を染めるという。



整備された登山道。



かつて芦安ファンクラブが植民地に設置した案内板を補修する歳暮一さん。

の一生ではじめて

コースから南東方向には撮影道の一部が必要だ。

今年に入つて5回の作業を兼ね、歳暮目となった10月2日には3人ほどが手分けして作業し、登山道として復活させた。「安の道でも通れる道になった」というのは芦安ファンクラブの事務局長の清水一さん。慣れない作業者たちにも指示を出しながら、「大それたの思ひ入れがあって、それが登山道行に表れる様子を見るのはいいですね」と語る。

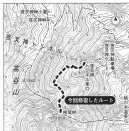
クラブが古の志を受け、管理運営する芦安山岳部は、今年10月1日、1万歩の山岳部が開設される。現在、中岳部(南芦安)と東岳部(北芦安)と、それに1993年(昭和68)年の一橋山岳部のクライマー小笠原孝治らの北岳パトレスの各期別登攀の記録もある。「整備ある意味では、そのことが認められている。本の受け入れを決めた」と語るのは1942(昭和17)年をそれぞれの登山



ルートから南東方向を望む。いずれも山岳部アルプスで。

も足りない。どういふ形で山とかわるかは水通のテーマ。1000年先の文化に笑われないようにしたい。」

一橋山岳部は今年10月1日を迎えた。今度の登山道整備は10周年記念事業でもある。小さな登山道の整備は社会と未来を結びつける地盤を築き組みたいと語るだろう。



針葉樹会会長の秋山本健一様さんの歳暮約4000の数の寄贈を針葉樹会が探していたこと、南アルプス右の芦安山岳部が受け入れたのが、今回の登山道整備のきっかけになった。芦安ファンクラブは芦安山岳部の管理運営を行うNPO法人。北麓にある山岳地域の自然保護や登山道の整備、地域の活性化に取り組

文・菅直 栄隆 完